

Oracle Java SE Universal Subscription: Java SE への投資を確かなものにするために

ソフトウェア・プラットフォームのメンテナンスとパッチ適用は、基幹業務アプリケーションの管理において最も重要な課題の1つです。Oracle Java SE Universal Subscription は、ライセンスとサポートをシンプルなサブスクリプションに統合し、企業全体での Java SE のインストール、アップデート、アップグレードをコスト効率よく管理できます。

Java SE の主要コントリビュータ兼スチュワードを務めるオラクルは、長期間のサポートと、適時かつ予測可能なスケジュールのアップデートを保証できる唯一の企業です。オラクルの Java SE Universal Subscription では、アップデートを管理するための一貫したツールを提供しているため、企業は自社の Java プラットフォームを監視し、専門の Java SE サポート・チームに直接問い合わせることができます。

Java SE への投資を確かなものにするために

Java は最も幅広く使用されているプロフェッショナルな開発言語であり、クラウド開発で最も選択される言語のひとつです。急速に変化していく開発者のニーズに応えるため、オラクルと Java コミュニティは、Java SE のリリース・サイクルを6か月に短縮し、開発者にイノベーションを速やかに提供しています。これまでの2〜3年ごとのメジャーリリースでは多くの機能が提供されていたのに対し、6か月ごとの機能リリースでは更新内容が少ないため、Java のイノベーションに対応しやすく、新しいリリースに移行しやすくなっています。企業にとっては、予測可能性と一貫性が向上し、大幅なコスト低減になります。これは2019年に行った、大企業を対象にしたさまざまな手段によるアップグレードの相対コストに関する調査結果でも裏付けられています。(右のコラム参照)

Java 開発者は待望の機能を何年も待つ必要がなくなりました。また、6か月ごとに JDK の最新版に無料でアップグレードすることで、新機能を利用することができます。ライセンスを簡素化するため、オラクルは OpenJDK のビルドを、Linux ディストリビューションに使用されているのと同じ GNU General Public License (GPL) の下で提供しています。これにより、Java SE はよりオープンになり、今までより利用が簡単になっています。



企業は Java のバージョン選択において、できるだけ柔軟でありたいと考えています。最近の調査では、回答者の56%がアプリケーションの実稼働を開始した時点のバージョンを使い続けることを希望し、Java の新機能バージョンにアップグレードするのは、開発スケジュールではなく、ビジネス・スケジュールに基づいて実施されることが判明しました。Java SE Universal Subscription による Java SE のアップグレードは、これを可能にします。また、コストを削減し、固定アップデートスケジュールを上回る柔軟性を提供します。¹

企業はますます総合的なソフトウェア・サポートとミッション・クリティカルなソフトウェア・パッチ適用に着目するようになっています。

ほとんどの大規模な組織では何十もの異なる Java バージョンがインストールされています。

組織がより簡単に Java SE のライセンスを取得し、長期サポートを受け、古い JDK バージョンのアップデートにセキュアにアクセスするために、オラクルは Java SE Universal Subscription を提供しています。

JDK 11 および 8 のアップデートは、個人的な使用、開発用途、およびオラクル製品との使用において無償使用が許可される OTN ライセンス契約に基づいて提供されます。その他の用途で使用する場合は、Java SE Subscription が必要です。JDK 17 のアップデートは「NFTC (No-Fee Terms and Conditions)」に基づき次の LTS リリース (2023 年 9 月予定) の約 1 年後までご利用いただけます。Java SE Universal Subscription を利用することで、クラウド、サーバー、デスクトップのデプロイメント管理に役立つツール、機能、アップデートを利用することができます。このようなエンタープライズ管理機能は、投資した Java SE のパフォーマンス、安定性、セキュリティを最適化するうえで役立ちます。Java SE Universal Subscription では、お客様のスケジュールに合わせてアプリケーションをアップグレード、更新することができます。

企業全体での Java の管理を強化

企業全体でシステムを見た時に、ビジネスにとって重要なアプリケーションが Java SE で動作していることが明らかになることがあります。通常、多数の異なるバージョンの Java プラットフォームがデスクトップ、サーバー、クラウドにインストールされています。環境に旧バージョンの Java を残すことが、セキュリティ・リスクになることがあります。最新のパフォーマンスとセキュリティの改善を得るために、常にアップデート版をインストールする必要があります。

- Java Management Service (JMS) は、Oracle Cloud Infrastructure (OCI) の最新ネイティブサービスで、クラウドやお客様の拠点で稼働している Java デプロイメントを監視するものです。これにより、企業における Java の使用状況を観察し、管理することができます。JMS は、サードパーティのクラウドを含む Java ポートフォリオ全体に対して正確かつ詳細な理解とアプリケーション・ライフサイクル管理機能により、お客様を支援します。詳しくは、「Java Management Service のスタート・ガイド」をご覧ください。
- Oracle Java SE Advanced Management Console (AMC) は、組織全体に導入された Java バージョンについてのダッシュボードによる表示を利用できるので、プラットフォーム・アップデートとセキュリティ修正をより厳格に管理できます。AMC はどの Java アプリケーションがどの Java バージョンによって起動されたかに関する情報を収集し、アプリケーションの互換性のインベントリを作成します。
- Java SE 8 を含む Oracle JDK では、ローカルの使用状況のログを利用できます。これを AMC と組み合わせて、どのアプリケーションにどの Java バージョンが使用されているかをカテゴリ化することで、現実的なアプリケーション・インベントリの構築に役立ちます。
- Java SE 8 Deployment Rule Set 機能を使用すると、セキュリティプロンプトの制御や、Web Start アプリケーションに対する企業の許可/拒否ポリシーの導入を含め、企業全体のブラウザ内 Java の実行を管理できます。ルール・セットを定義することで、さまざまな Java アプリケーションで、クライアントにインストールされているさまざまなバージョンの Java を使用できます。この機能は、旧バージョンの Java を使用したり、複数の Java バージョンをサポートしたりする必要のある組織で役立ちます。
- Java Flight Recorder および Java Mission Control は、最小限のパフォーマンス・オーバーヘッドで稼働中の診断を実現し、アップタイムを向上させます。
- Java SE 8 MSI のカスタマイズ: システム管理者は、Java インストーラのカスタマイズ・ツールを使用して MSI を再パッケージし、管理対象システムに Java をインストールする方法を制御できます。

重要なアプリケーションにおいて障害が発生した場合、時間あたりの平均コストは数十万ドルにもなります。さらに、ダウンタイムがブランド、評判、顧客満足度に悪影響を与えることも多々あります。最悪の場合、サイバー攻撃の成功でマイナスのイメージが定着します。²

サポート

430,000 社を超えるお客様がオラクルを選択し、Oracle Support を利用することで、テクノロジー投資を強固なものにしています。クラウドにおけるワークロード、サーバー、デスクトップのサポートは、Java SE Universal Subscription において肝となる部分です。Java SE Universal Subscription を購入すると Oracle Premier Support が付帯されます。これには、経験豊富な Oracle の Java サポート・チームへの 24 時間 365 日の問い合わせサービスが含まれています。Oracle Java SE 製品上の Oracle Premier Support www.oracle.com/jp/support/premier/の詳細については、[Oracle Lifetime Support Policy www.oracle.com/jp/support/lifetime-support/](http://www.oracle.com/jp/support/lifetime-support/)を参照してください。これらのページでは、サポートのロードマップ www.oracle.com/jp/java/technologies/java-se-support-roadmap.htmlとともに、オラクルの優れた Java SE Universal Subscription のサポート範囲を包括的に閲覧することができます。

Java SE Universal のお客様は、Oracle Java SE バイナリに対する Oracle Premier サポートに加え、サードパーティのライブラリやランタイムを含む Java ポートフォリオ全体に対するトリアージ・サポートを受けることができます。業界をリードする Java SE サポート・リソースに直接アクセスできることで、以下が可能になります。

- Java の問題を迅速かつ効率的に記録して解決
- 問題解決までの時間を短縮し、Java のサポート費用を最小限に抑える。
- Java アプリケーションの稼働時間を最大化

Java のパッチとセキュリティ・アップデート

2019 年 4 月以降、OTN ライセンスに基づきリリースされた Java 8 アップデート。これは組織にとって何を意味するのでしょうか？オラクルでは、Java パートナーとの連携による幅広い経験から、ほとんどの大企業がさまざまな理由で複数のバージョンの Java を実行していることを認識しています。自社のアプリケーションが特定のバージョンの Java にしか対応していない組織もあります。Java SE Universal Subscription は、運用中の Java のバージョンの柔軟性を向上させることで、このようなビジネス・ニーズに対応できるように設計されています。

Java SE Universal Subscription の期間に基づくライセンスとサポートを利用することで、バージョン間の移行時期を柔軟に選択できるようにし、同時に Java プラットフォームを安定かつ最新の状態に保つことができます。システムに旧バージョンの Java を残しておく、セキュリティ・リスクになることがあります。最新のパフォーマンスとセキュリティの向上を得るためには、必ずアップデートをインストールする必要があります。

組織が企業または業界全体の義務に従う必要があることがあります。特に、入手可能なすべてのセキュリティ・パッチをインストールして、ソフトウェア・プラットフォームがサポートされており、最新の状態に保つ必要がある場合などです。Java SE Universal Subscription を使用すれば、これらの義務を簡単に果たすことができます。

- パブリック・アップデートが終了したバージョンの Java でも、全面的にアップデートされる Java のリリースを継続して入手できるので、アップグレード・パスをコントロールできます。
- ブラウザ上で異なるバージョンの Java を並行して効率的に実行できるため、さまざまなアプリケーションの互換性を管理できます。

Java SE Universal Subscription

のまとめ

- エンタープライズ・クラウド、サーバー、デスクトップ・デプロイメントに必要なすべての Java SE ライセンスに対応
- さまざまなバージョンに対するパフォーマンス、安定性、セキュリティ・アップデートを利用できることで、Java SE への投資を保護
- 最大限の柔軟性を持った形で Java アプリケーション・ポートフォリオを管理し、現在使用している Java バージョンを自社のスケジュールでアップデートが可能
- 最新の Java アップデートおよびセキュリティ修正を適用した最新の状態を維持
- 企業全体の Java SE 8 デスクトップの使用の一元的な制御と管理を実現
- Java のデプロイメント、監視、運用コストを最小化

Java SE Universal Subscription

のパフォーマンス

- Enterprise Performance Pack は、JDK 8 のサーバー・ワークロードに JDK 17 のパフォーマンスを提供します。JDK8 の単純な置き換え。サーバー側 Linux (Intel ARM)、64 ビット、ヘッドレス。
- GraalVM Enterprise は、最新のマイクロサービス向けのハイパフォーマンスなランタイムを提供します。
- Enterprise Performance Pack と GraalVM Enterprise はそれぞれ、Java SE Universal Subscription のお客様と Oracle Cloud Infrastructure (OCI) ユーザーには追加費用なしで提供されます。

Java 向けエンタープライズ・クラスのパフォーマンス

- JDK 8 サーバー・ワークロードを実行しているサブスクリイバーおよび OCI ユーザーは、Java SE Subscription Enterprise Performance Pack (Enterprise Performance Pack) を利用することができます。パフォーマンス・パックは、JDK9 から JDK17 で開発された大幅な改善点を、JDK8 のワークロードに提供します。これには、JDK15 の超低レイテンシ・ガベージ・コレクタ ZGC や、JDK9 のコンパクトな文字列によるメモリ節約など、メモリ管理とパフォーマンスの大幅な向上が含まれます。使用している JDK 8 を単純にこれに置き換えるだけで、メモリや CPU の容量に近くまで負荷のかかるアプリケーションを実行しているお客様は、すぐにその効果を実感することができます。社内およびパートナーによるテストでは、負荷の高いアプリケーションのメモリ使用量とパフォーマンスの両方が最大 40%改善されたことが確認されています。
- また、サブスクリプションには、最新のマイクロサービス向けのポリグロット機能を備えた高パフォーマンスのランタイムである GraalVM Enterprise が含まれています。GraalVM Enterprise を使用することで、起動時の大幅な改善と、事前コンパイルによるさらなるメモリ節約が実現します。GraalVM EE の詳細については、[データシート](#)をご覧ください。

Java SE Universal Subscription

企業全体の期間に基づく Java SE Universal Subscription モデルには、クラウド・デプロイメント、サーバー、デスクトップのライセンスとサポートが含まれます。

- 従業員1人当たり月額15ドルからと、ボリュームに応じたシンプルな価格設定です。
- サードパーティのライブラリやランタイムを含む、お客様の Java ポートフォリオ全体に対し、トリアージ・サポートを提供します。
- デスクトップ、クラウドワークロード、オンプレミスを含む幅広い社内利用ライセンス権
- Java SE Subscription Enterprise Performance Pack を含む Java SE 8 コマーシャル機能
- Oracle Java SE の現行および旧リリースにおけるパフォーマンス、安定性、およびセキュリティのアップデート
- 追加費用なく GraalVM Enterprise の使用権の付与(本製品の詳細は、[GraalVM EE データシート](#)を参照)
- MOS (My Oracle Support)経由での Oracle Premier Support
- 期間に基づくライセンス体系

リソース

- Java SE Universal Subscription ソリューションに関する詳細については、以下をご確認ください。<https://www.oracle.com/jp/java/java-se-subscription>
- [Java SE Subscription Enterprise Performance Pack](#) のブログはこちらからご覧いただけます。<https://blogs.oracle.com/java/post/introducing-the-java-se-subscription-enterprise-performance-pack>.

無料の「Java Health Check」が、お客様の組織にメリットがあると感じていただけるようでしたら、Java の専門チームが、組織全体での Java の使用状況や、積極的に効果的な Java の管理方法について詳しくご説明します。電話番号：050-3615-0035

組織全体の Java SE の管理についてのよくある質問

ご質問内容	ビジネス・シナリオと影響	ソリューション
組織内に、最新のパフォーマンス、安定性、セキュリティ修正を利用できない Java バージョンはありますか？	多くの場合、企業内のさまざまなアプリケーション領域がそれぞれ別のチームで管理されており、Java のデプロイメントを管理するための一元的なポリシーがないことがよくあります。オラクルは、Java の最新リリースに対するパフォーマンス、セキュリティ、および安定性を向上させるパブリック・アップデートを提供していますが、それ以前のバージョンのアップデートを本番環境で使用するには、Java SE Universal Subscription が必要です。	Java SE Universal Subscription の機能である企業全体の Java の使用状況を把握するための優れたモニタリング・ツールを使用すると、社内でのどのバージョン、パッチ、セキュリティ・アップデートが使用されているかを監査および管理できます。さらに、Java SE プラットフォームのすべてのメジャー・リリースのすべてのパッチを利用できるようになります。
すべての Java アプリケーションを最新のリリースにアップデートしていますか？最新のアーリー・アクセスのリリースを利用していますか？ 次回の長期サポート・リリースへの移行についてどのような計画を立てていますか？	Java バージョン間の移行に際し、時間とコストのかかる QA のやりとりが必要になることがあります。すべてのアプリケーションをすばやく最新のバージョンにアップグレードするには、社内の Java に関する専門知識やリソースが足りないことがあります。アプリケーションが基幹業務用でない場合や、何年も安定して稼働してきた場合もあります。ただし、このような旧バージョンは、パッチやサポートがないため、企業をリスクにさらしている可能性があります。	Java SE Universal Subscription には、Java SE プラットフォームのすべてのメジャー・リリースのすべてのパッチとグローバルのサポートが含まれます。Java SE Universal Subscription は、旧バージョンの Java パッチを提供します。これにより、Java プラットフォームの最新のパフォーマンス、安定性、およびセキュリティが改善されることから、これらの旧バージョンをより長く利用することが出来ます。
組織のデスクトップには Java のどのバージョンがインストールされていますか？Java のアップデートはどのように管理されていますか？	組織全体の Java の使用状況について把握できる範囲に限界を感じているかもしれません。多くの組織では、アップデートの実施は不定期で、個々のチームがその場限りの管理をしています。これは特にデスクトップ環境に当てはまります。これにより、エンタープライズ・プラットフォームのコア・コンポーネントが適切に管理されていないという状況が浮き彫りになります。	Java SE Universal Subscription では、組織のデスクトップの管理に役立つツールやアップデート方法を提供します。さまざまなバージョンのアプリケーションを必要とする場合、「デプロイメント・ルールセット」の管理を支援するツールが役に立ちます。難しい要件や、ときには矛盾するような要件のサポートを可能にします。
業界のコンプライアンス・レビュー(HIPAA など)が必要ときに、Java インストール・ベースを報告できますか？	機密情報を保存している場合、定期的な PCI または HIPAA 監査の対象になり、環境のサポートが切れていないこと、最新のセキュリティ・パッチおよびアップデートで最新の状態が保たれていることを示す必要があります。	Java SE Universal Subscription の管理エレメントは、さまざまな Java SE 環境の管理を維持し、組織全体のさまざまなバージョンについて報告できるようにします。
Java プラットフォームにおける潜在的な課題に対してどのように対応していますか？	Java プラットフォームに関連する問題が発生したときにサポートに問い合わせができないと、インターネット上で解決策を探す以外に方法がありません。オンラインで見つかる解決策は、正確でなかったり、最新でなかったり、効率的でなかったりします。修正方法の調査やテストには、時間とコストがかかり、アプリケーションのダウンタイムによって多大なビジネス・コストが発生する場合があります。	Java SE Universal Subscription では、オラクルの Java のグローバル・サポートの専門家チームを活用できます。Java の問題を直ちに解決できる道筋を手にすることで、リスクが低減し、アプリケーションの稼働時間が最適化されます。

¹Wikibon による Java に関する 2019 年の調査データ (対象: 従業員 30,000 人以上で、50 を超える Java アプリケーションを利用している大企業 59 社)

²IDC の「Protect Applications by Integrating Security into DevOps(セキュリティの DevOps への統合によるアプリケーション保護)」#US43015217

お問い合わせ

050-3615-0035 にお電話いただくか、oracle.com/jp にアクセスしてください。もしくは、oracle.com/jp/corporate/contact で最寄りのオフィスをお探してください。

 blogs.oracle.com

 facebook.com/oracle

 twitter.com/oracle

Copyright © 2023, Oracle and/or its affiliates. 無断転載を禁じます。この文書は情報提供のみを目的とし、内容は予告なく変更される場合があります。この文書は、エラーがないことを保証するものではなく、口頭または法律で明示されているかどうかにかかわらず、商品性または特定の目的への適合性の黙示の保証および条件を含む、その他の保証または条件の対象ではありません。当社は、この文書に関していかなる責任も負わないものとし、この文書によって直接的または間接的にいかなる契約上の義務も発生しないものとします。この文書は、当社の事前の書面による承諾を得ることなく、目的の如何を問わず、電子的手段または印刷によるものも含めていかなる形式や手段によっても複製または送信することは禁じられています。

Oracle および Java は Oracle およびその関連会社の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel および Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標はライセンスに基づいて使用される SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴおよび AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。0120

免責事項: この文書は情報提供を目的としています。何らかの資料、コード、または機能を提供することを約束するものではなく、購入を決定する際に根拠とされるべきものではありません。このドキュメントに記載されている特徴または機能の開発、リリース、時期および価格については、オラクルの裁量により決定されます。

